

## 研究実施における情報公開 (松戸歯学部単独研究)

研究の名称： ヒト抜去歯を用いた根管拡大形成について(承認番号 EC17-016)

研究機関・講座： 日本大学松戸歯学部・歯内療法学講座

研究責任者： 准教授・辻本 恭久

研究期間： 平成29年12月～平成34年12月

### 1. 研究対象者

歯内療法学講座に開学以来より、匿名化され個人が識別できない水中保管されていた  
ヒト抜去歯

### 2. 研究目的・意義

Ni-Ti ファイルを用いた適切な根管拡大形成法に関しては完全に確立しているとは言えず様々な方法が提唱されてきた。現在は、根管口明示後の根管口のストレート化、専用のファイルを使用した根尖孔への穿通、そして専用ファイルを使用したガイドパスを行いロータリーNi-Ti ファイルを使用した根管拡大をすることで従来行ってきた手用ファイルを用いた根管拡大よりも正確に、早く、根管の偏移を生じることなく根管拡大をすることが容易となるといわれている。しかし、人工根管での結果は報告されていても、実際のヒトの歯の根管においての実績はない。以前われわれは、ヒトの抜去歯を用いて根管の湾曲度によってはNi-Ti ファイルが破折しやすくなることを報告してきたが、根管拡大において器具の破折をなくし正確な根管拡大を安全に、早く行えるよう検索することは重要なことである。歯根の形態、根管の形態、根尖部の石灰化に対する対策等、実際の抜去歯を使用して行わなければ得られないデータは沢山あるが、これまでにその報告はない。従って、本研究により根管治療の時間を短縮し、しかも根管拡大の精度が上がり、歯を抜歯せず根管治療によって保存するためにはどうすればよいかの一端を解明することで、患者の QOL 向上につながるものと考えられる。

### 3. 方法

抜去歯の天蓋除去をタービン、エンジンを用いて行う。  
根尖穿通用の#10ファイルで穿通度(根尖までの到達度)の確認を行いエックス線撮影する。  
#10穿通用ファイルで穿通できたもの出来なかったものに分類し、穿通用モード、ガイドパス用モードが組み込まれているトライオートZX2(モリタ)を用いて#15穿通用ファイルを用いて穿通、ならびにガイドパス用#15Ni-Tiファイルを用いてガイドパスを行う。そのために要した時間を各々計測し、エックス線撮影も行う。数種類のNi-Tiロータリーファイルを用いてレシプロックモーションと回転運動だけのものの比較を行うために専用の低速エンジンを使用する。費やされた時間を計測しどのファイルあるいはどの方法が良かったかをエックス線写真から根管の偏移、レジン等をチェックし検討する。

### 4. 研究に利用する試料・情報等

試料： 歯内療法学講座に開学以来より、匿名化され個人が識別できない水中保管されていたヒト抜去歯

情報： なし

### 5. お問い合わせ先

本研究は、倫理委員会の承認を受けた研究計画書に従い、お預かりした試料・情報等には匿名化処理を行い安全管理措置を講じたうえで取り扱っています。研究の詳細をお知りになりたい場合は、下記までお問い合わせください。他の方の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲で、研究計画書等を閲覧することが出来ます。

なお、研究対象者に該当すると思われる方で、ご自身の試料・情報を「この研究で利用して欲しくない」と思われた場合にも、その旨をご連絡下さい。ご了承いただけない場合には研究対象といたしません。また、その場合でもご自身に不利益が生じることはありません。

<問い合わせ先>

研究責任者：日本大学松戸歯学部・歯内療法学講座・准教授・辻本 恭久

電話番号： 047-360-9371

-----以上